報道発表資料

東京消防庁　Tokyo Fire Department

平成２５年１１月７日

エアゾール缶等に係わる火災にご注意を！

～　エアゾール缶等の取扱いや廃棄方法に要注意　～

例年、鍋の調理で簡易型ガスこんろを使用したり、暖房器具を使用する機会が増える冬季に、エアゾール缶等に係わる火災が多く発生していることから東京消防庁では注意を呼びかけています。

なお、廃棄の際にエアゾール缶の穴あけをすることで発生する火災にも注意しましょう。

【エアゾール缶等とは】

可燃性ガスを噴射剤とした整髪剤、消臭剤、パーツクリーナー等のエアゾール缶と簡易型ガスこんろの燃料として用いられるボンベを合わせていいます。

【エアゾール缶等に起因する火災発生状況】

１　最近５年間（平成 20 年から平成 24 年）では 862 件の火災が発生し、死者１人、負傷者 294 人と多くの方が受傷しています。

２　平成 25 年中は、９月末現在で 90 件の火災が発生し、41 人の負傷者が発生しています。

３　最近５年間の発生状況を月別にみると、11 月、12 月、１月を合わせると 326 件の火災が発生しており、冬季に多く発生しています。これらは、エアゾール缶等の火災の４割近く（37.8%）を占めています。

【こんなことで火災に】

１　簡易型ガスこんろに燃料ボンベを装着する際に、誤って装着したため出火した。

２　ガステーブルや暖房器具を使用中に、近くのエアゾール缶等が破裂して出火した。

３　廃棄のため、エアゾール缶を穴あけしたところ、エアゾール缶から可燃性ガスが漏れ出火した。

【火災を防ぐために】

１　簡易型ガスこんろに燃料ボンベを取付ける際は、取扱説明書をよく読み、燃料ボンベ容器ガイドの切り込み部分を本体容器受けガイドの突起部分に正しく合わせて取付けましょう。

２　エアゾール缶等はガステーブルや暖房器具の上やそばなど、高温となる場所には置かないようにしましょう。

３　エアゾール缶等を廃棄する場合は、穴をあけずに必ず中身を使い切り、各区市町村が指定する廃棄方法に従って捨てましょう。

※　実験映像と火災の事例写真を希望する社は、広報課報道係までご連絡ください。

問合せ先

東京消防庁 ㈹　電話 3212-2111

予防部調査課　内線 5065　5067

広報課報道係　内線 2345～2350

【別紙】

＜最近５年間（平成 20～24 年）の主なエアゾール缶等による火災の状況＞

１　年別火災状況

表１　年別火災状況

年別	火災件数									損害状況			
	合計	建物					車両	船舶	その他	焼損床面積（㎡）	焼損表面積（㎡）	死者	負傷者
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや							
合　　計	862	349	1	6	18	324	498	2	13	703	306	1	294
平成 20 年	206	67	−	1	2	64	135	−	4	102	41	1	74
平成 21 年	207	77	−	2	6	69	127	−	3	207	98	−	53
平成 22 年	176	70	−	1	5	64	104	1	1	115	123	−	64
平成 23 年	155	74	1	1	1	71	78	−	3	88	30	−	62
平成 24 年	118	61	−	1	4	56	54	1	2	191	14	−	41
平成 25 年	**90**	**52**	**−**	**1**	**3**	**48**	**34**	**−**	**4**	**54**	**20**	**−**	**41**

注１　合計欄の数値は、平成 20 年から平成 24 年の合計値です。

２　平成 25 年の数値は 9 月 30 日までの速報値で、後日変更される場合があります。

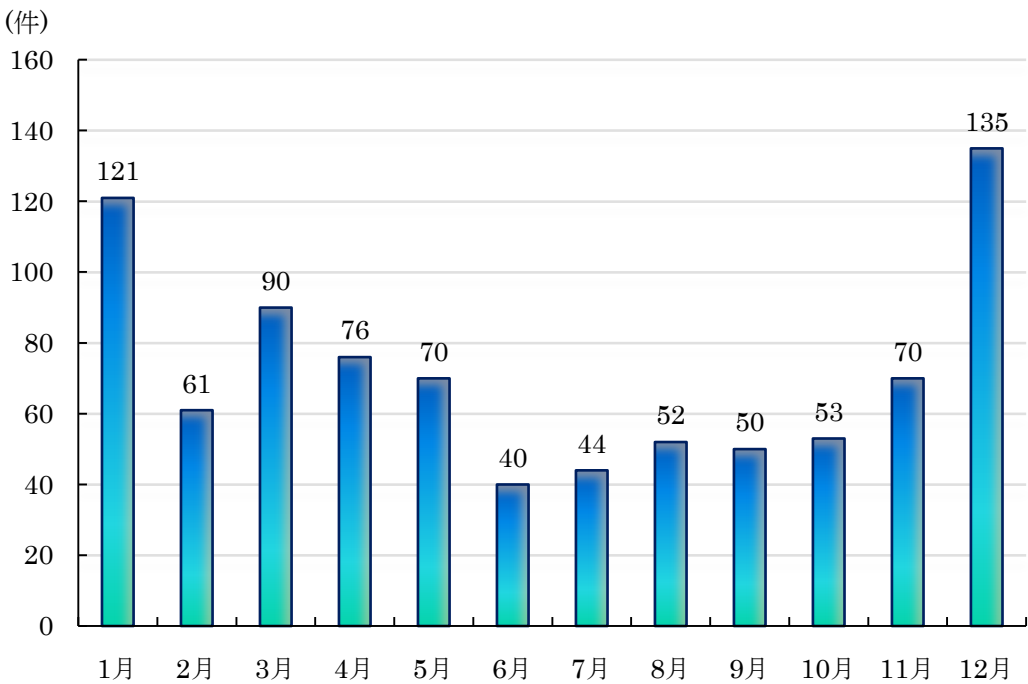
２　主なエアゾール缶等による月別火災の発生状況（最近５年間）

※　平成 20 年から平成 24 年までの累計値です。

図１　最近５年間のエアゾール缶等による月別火災の発生状況

３　火災発生の要因等

表２　平成２４年中火災発生要因別火災件数

種別		合計		エアゾール缶	簡易型ガスこんろ用燃料ボンベ
合計		118		74	44
廃棄	清掃車	52	84	33	19
	穴あけ	26		19	7
	その他	6		3	3
取扱不適	厨房・暖房器具	13	34	5	8
	装着不良	4		0	4
	その他	17		14	3

【火災事例】

事例１　「燃料ボンベの誤装着により出火した火災」

出火場所　新宿区内

出火時分　平成２３年２月　２０時ごろ

用　　途　複合用途（飲食店・共同住宅）

被害状況　建物ぼや　簡易型ガスこんろ１焼損　負傷者２人

概　　要

この火災は、複合用途建物の１階で営業中の飲食店から出火したものです。

出火原因は、飲食店の従業員が、簡易型ガスこんろの燃料ボンベが正しく装着されていない状態に気付かず使用したため、燃料ボンベのガスが漏洩し、点火つまみを回した際の火花で引火し出火したものです。

従業員が、客席で簡易型ガスこんろに燃料ボンベを装着して点火したところ、簡易型ガスこんろから炎が上がるのを発見しました。

写真 1-1　出火した店内の状況

写真 1-2　燃料ボンベの誤装着状況

火災を防ぐために

- 燃料ボンベを取付ける際は取扱説明書をよく読み、燃料ボンベ容器ガイドの切り込み部分を本体容器受けガイドの突起部分に正しく合わせて取り付けましょう。
- 燃料ボンベには、切り込みの位置を示すマーク(矢印など)が付いているので、よく確認して取り付けましょう。
- 正しく取り付けられていないと、ガスの漏れる「シューッ」という音がしたり、容器セットレバー(燃料ボンベを固定するレバー)が動かないことがあるので、燃料ボンベを一旦取り外し、正しく取り付けましょう。

写真 1-3　再現実験の状況　　**写真 1-4　正しい装着の例**

事例２　「簡易型ガスこんろを載せた状態でガステーブルのグリルを使用し出火した火災」

出火場所　　北区内

出火時分　　平成２４年９月　１８時ごろ

用　　途　　共同住宅

被害状況　　建物ぼや　ビニール袋等焼損　カセットこんろ等破損　負傷者２人

概　　要

この火災は、共同住宅の５階台所から出火したものです。

出火原因は、居住者女性がガステーブルの上に簡易型ガスこんろを載せたまま、ガステーブルのグリルを使用したため、時間の経過とともにグリルの排気口からの熱により燃料ボンベが過熱され、ボンベの内圧が高まり破裂し、グリルの炎が漏れたガスに引火して出火したものです。

居住者女性が､食事の準備のため台所のガステーブルのグリルで魚を焼いていたところ、ガステーブルの上に置かれていた簡易型ガスこんろの燃料ボンベが破裂し、シンク内に落ちた燃料ボンベから炎が出ているのを発見し、水道の水を手でかけて消火しました。その際に、火元者は顔面に火傷を負い、付近にいた息子も顔面と手に火傷を負いました。その後、自宅の電話から 119 番通報しました。

写真 2-1　簡易型ガスこんろの破損状況

写真 2-2　窓ガラスの破損状況

火災を防ぐために

・厨房器具や暖房器具のそばなど、高温となる場所に置くことはやめましょう。
・エアゾール缶は、風呂釜、厨房、暖房器具等の付近では引火の恐れがあるため使用するのはやめましょう。
・居室等でエアゾール缶等を使用した後は、十分に換気を行いましょう。滞留した噴射剤の可燃性ガスに引火する恐れがあります。

事例３　「制汗スプレー缶の穴あけ後に発生した火災」

出火場所　　世田谷区内

出火時分　　平成２４年１２月　９時ごろ

用　　途　　事務所

被害状況　　建物ぼや　ガス瞬間湯沸器、電子レンジ、冷蔵庫各１等焼損　負傷者１人

概　　要

この火災は、１階事務所の湯沸場から出火したものです。

出火原因は、事務所の従業員が使用済みの制汗スプレー缶５本の残留ガスを抜くため、市販の器具を使用し制汗スプレー缶に穴を開けた後、ガス瞬間湯沸器を点火したため、滞留していた噴射剤の可燃性ガスにバーナの炎が引火し出火したものです。

事務所の従業員は、湯沸場で換気扇を回しながら使用済みの制汗スプレー缶５本の残留ガスを抜き、手を洗おうとガス瞬間湯沸器を点火したところ、湯沸器付近から炎が出てくるのを発見し、屋外で作業中の同僚に初期消火を依頼しました。その際に、従業員は熱気を吸いこみ負傷しています。その後、事務所の電話から119番通報し、初期消火の依頼を受けた同僚は粉末消火器で初期消火しています。

写真 3-1　出火した湯沸場の状況

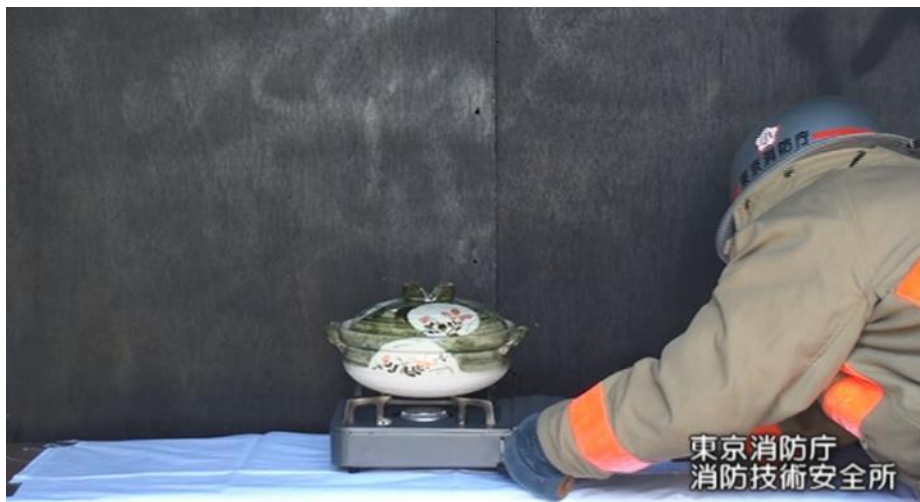
写真 3-2　焼損したスプレー缶の状況

火災を防ぐために

・廃棄のためエアゾール缶等に穴を開けると、噴射剤の可燃性ガスが噴出し、付近で使用中の燃焼器具等の炎で引火し火災となる危険性があります。また、可燃性ガスに引火すると炎が急激に拡大するため、負傷者が発生する危険性があります。
・エアゾール缶等を廃棄する場合は、必ず中身を使い切り、各区市町村が指定する廃棄方法に従って捨てましょう。
・穴をあけて廃棄しなければならない場合は、中身がないことを確認し、火気のない屋外の風通しの良い場所で穴をあけて廃棄しましょう。

【エアゾール缶等火災の実験映像】

1　簡易型ガスこんろに燃料ボンベを誤って装着して、点火した場合の実験です。

⑴　燃料ボンベを誤って装着し、器具栓つまみを回して点火した状況です。

⑵　点火時の火花で漏れたガスに引火した状況です。

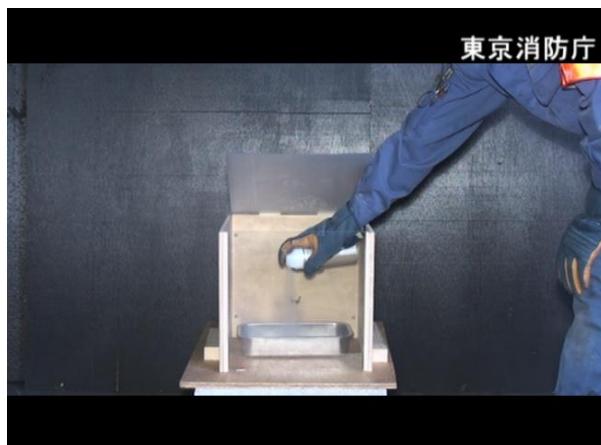
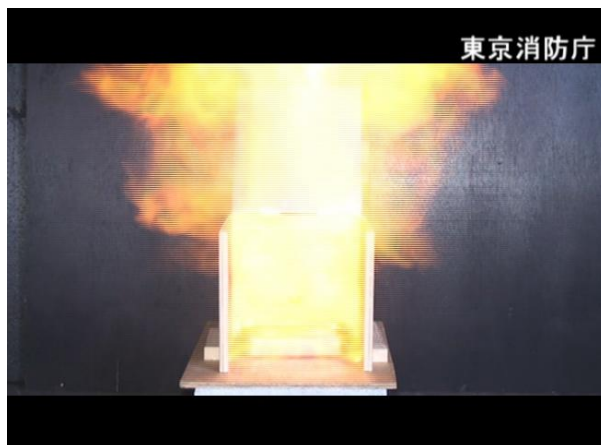
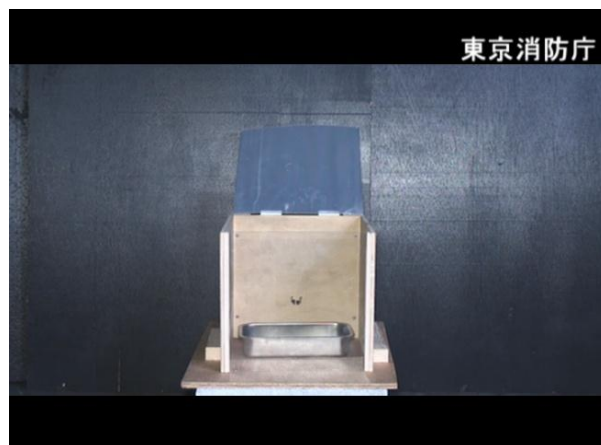
⑶簡易型ガスこんろ全体が炎に包まれました。

２　密閉空間で、制汗スプレー缶及びパーツクリーナーを使用していたところ、滞留した可燃性ガスに引火した場合の実験です。

制汗スプレー缶とパーツクリーナーの燃焼実験状況と比較すると、パーツクリーナーを使用したほうが長時間燃焼を継続していることがわかります。

これは、パーツクリーナーには、危険物第四類第１石油類の溶剤が充填されているため、爆発後も溶剤が燃焼継続する性質を持っています。

⑴　制汗スプレー缶での実験

ア　密閉空間で制汗スプレー缶を使用している状況です。

イ　可燃性ガスが滞留した状態でイグナイター（点火装置）を使用し、可燃性ガスに引火した状況です。

ウ　溶剤に危険物が含まれていないため、噴射剤の可燃性ガスに引火し爆発後は、燃焼継続していません。

⑵　パーツクリーナーでの実験

ア　密閉空間でパーツクリーナーを使用している状況です。

イ　イグナイター（点火装置）で点火した状況です。

ウ　パーツクリーナーの噴射剤である可燃性ガスに引火し爆発後、溶剤の危険物第四類第１石油類が燃焼継続している状況です。

3　簡易型ガスこんろのそばでエアゾール缶等の穴あけをした場合の実験です。

⑴　ガステーブルで調理中にエアゾール缶に穴あけをしようとしている状況です。

⑵　エアゾール缶に穴あけを実施している状況です。（ガスコンロの炎は点火状態です）

⑶　エアゾール缶内のガスが漏れ、引火した状況です。

4　カステーブルを使用中にエアゾール缶を使用した場合の実験です。

⑴　こんろを使用中にエアゾール缶を噴射

a　実験開始時の状況です。

b　噴射したガスに引火した状況です。

c　噴射を継続した状況です。

⑵　グリルを使用中にエアゾール缶を噴射

a　実験開始時の状況です。

b　噴射したガスに引火した状況です。

c　噴射を継続した状況です。